

学校（陸士・航士・陸経・陸幼・軍官）名簿』が披露されました。

その後、マイクロバスで市内千田町の料亭「九里川」内の一室に移動しました。参加者は、昨年度より4名多く、総勢16名（旧軍6名、陸自10名）でした。

旧軍は、今年も赤いカーブの帽子をかぶったお元気な長老先輩、野坂辰夫（陸士59）を始めとして、深澤嘉一会長（陸士61）、緒方昭三相談役（陸士61）、横崎元男（同）、と私、高崎禎夫副会長（広幼48）の5名に加えて、新しく、原田哲志（熊幼44陸士59の原田十志雄氏のご長男）が、お出でくださいました。陸自は、綿貫昌芳副会長（陸自66）、木船久幸事務局長（陸自68）、これを強力に補佐する嶋田正志事務局次長（陸自95）、田所恒之輔（陸自69）、宮本正（陸自71）、安永公四郎（陸自92）、山崎満（陸自98）の7名に、今年は、宮本宗晴（陸自67）、奥田虎昭（陸自70）、中川強（陸自78）の3名が加わりました。写真は、古い、由緒ある「広島偕行会」の旗と並んで整列した、この日の参加者の全員です。

なお、戸塚新さん（陸士61）亡き後の満3年間、平成30年夏までの『偕行』編集委員長・井上廣司さん（陸自72）が、このほどご郷里広島県に戻られて、わが広島県偕行会に入会しておられます。

総会は、木船事務局長の司会によって、国歌斉唱、英霊・物故会員への黙祷、会

広島県偕行会

令和元年度総会

令和元年度の広島県偕行会の総会は、令和元年8月25日（日）、11時～14時に行われました。会費は、5千円（年会費、懇親会費、玉串料等を含む）でした。

初めに護國神社に集まって、全員、玉串を奉って拝礼しました。続いて、今年、宮司さんより、広島県の「さくら陶板」〔靖國神社「慰霊の庭」のそれと同じ〕の「花びらの額」や、分厚い『陸軍士官

長挨拶と全国偕行会会長会同・総会の報告、ついで、綿貫副会長・木船事務局長による会務・会計報告が行われました。

会務報告では、旧軍38名・陸自36名の現勢から、当面、陸自50名を目標に入会を促進すること、自衛隊との協力として、

8月4日、海田市駐屯地夏祭り（花火大会）への協賛実施、11月24日、創立記念行事への参加予定のこと、また、慰霊活動として、廣島護國神社の春秋季例大祭、海田市駐屯地の第13旅団殉職隊員慰霊祭への役員の参加、さらに、深澤会長と奥田虎昭さんから、「庄原陸軍病院死没者（約20名）の碑」の他に、同市内の浄光寺にある「広幼49期生原爆死3名の慰霊追悼碑」にも、参拝を実施したことが話されました。なお、毎年4月の「広島比治山陸軍墓地合同追悼式」（奉賛会長＝元外務大臣・岸田文雄）は、本年度も不実施でした。

懇親会では、全参集者がこもこも立って、マイク片手に、制限時間いっぱい、思いのたけを語りました。予めの想定をはるかに上回る、再度の登場も含む、斬新で愉快な自己紹介や、率直な各自の思いの開陳でした。会は、豊かな笑いの中で、一挙に親睦の度を深めました。

恒例の歌の競演は、「陸軍士官学校校歌」の1番8番と、「陸自幹部候補生学校校歌」の1番2番でした。

そして最後は、私による、海田市駐屯

地・顕彰館「広幼コーナー」への感謝と、会誌「偕行」購読の薦めに続く、本会の弥栄を祈つての万歳三唱をもって、笑顔のうちに、再会を期し、散会しました。

（副会長 高崎禎夫 広幼48）

